

第5学年西組 社会科学学習指導案

「買い負け！回転寿司から魚が消える未来！？ ～これからの食料確保～」

学習指導者 半澤 友博

1 学級（34名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果を見ると、社会科の授業で、できた理由を考えていると答えた子供は31名いる。しかし、実際の授業では、本時の学習を振り返る際に、自分がなぜ課題達成できたのかが明確にならず、振り返りに記述することが難しい子供が見られる。また、共調整に関する質問項目において、友達が分かるように説明している子供の割合は高いが、それらと比べて自分が困ったときやよりよい考えを見つけたときに友達にどのように考えたかなどと聞いている割合は低い。

（2）本単元の学習に関する学級の実態

日本の食料自給率は低いと考えている子供は6名であった。また、輸入していそうな食料を聞いたところ、小麦や果物、肉などと答えた子供が多く、水産物という回答は少なかった。多くの子供は、日本で捕れた水産物を消費していると考えていることが分かった。

2 本単元で習得を目指す「振り返る」方法

自分なりに答えを見付けられた理由（納得ポイント）を見付ける

3 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

回転寿司のメニューの昔と現在の値段を比較する中で設定した「なぜ回転寿司の値段が上がったのだろう」という単元の目標の解決に向けて見いだした問題の中から、全体で解決すべき問題か話し合ったり、課題解決後に見た新たな資料などから感じた疑問を共有したりするなどして学習課題を設定する。そして、調べる方法や、外国の人の立場から考えたり、昔の輸入先と比べたりするなどの社会科のこつが使えるようか考え、解決の見通しをもつ。

解決場面では、空間的視野や時間的視野を広げながら、資料同士を関連させたり、既習と生活経験を関連付けたりしながら水産物の輸入量や輸入先について、話し合う。例えば、回転寿司のネタはどこから輸入されているのか調べる際は、「回転寿司の成分表からマルタやチリなどの国から輸入されていることが分かるね」「マルタやチリって、今まで聞いたこともないけど、世界地図で言えばどこだろう」「どこかな。私も分からないな。地図帳で調べてみよう」「世界地図を調べるとマルタやチリは日本からかなり遠いね」「確かに。だからその分、燃料代や人件費が高く、コストがかかっていて回転寿司の値段が上がっているんじゃないかな」のように、空間的視野を広げながら、回転寿司のネタがどこから輸入されているのかについて捉えていく。

振り返り場面では、今日分かったことをまとめた後、なぜそれが分かったのかという納得ポイントを板書や友達の発言、社会科のこつなどを基に見付ける。それをお互いインタビューし合うことで課題解決できた理由がより明確になっていくだろう。例えば、「〇〇さんの一番の納得ポイントは何」「△△さんの世界の人が水産物を食べるようになったという意見だよ。立場を変えたからよく分かったよ」「なるほど。社会科のこつで言うところの立場なの」「どこだろう。どれだと思う」「そうだね…③の外国の人の立場じゃないかな」「なるほど。詳しく分かったよ。ありがとう」「じゃあ、□□さんの納得ポイントは何」などと友達との関わりの中で学び方を振り返り、共有することで、協働のよさや自分が友達の学びに貢献できたことを感じていく。そして、「コストがかかったから高くなったのかな」「じゃあ昔は近くから輸入できていたのかな」「資料を見ると昔は近い国から輸入できていたみたいだね。どうして遠くから輸入するようになったのだろう」のように問題を共有し、次の問題を見いだしていく。

4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①・⑤時

①時では、回転寿司屋に行った経験を共有したり、回転寿司屋と個人営業の寿司屋を比較したりする中で、安いという回転寿司屋ならではのよさを共有する。そして、回転寿司について調べていった後、回転寿司の昔と今の値段を提示し、過去と比較することで、値段の上昇に対する子供の驚きを基に、「なぜ回転寿司の値段が上がったのだろう」という単元の目標を設定する。⑤時では、輸入に頼っている問題は水産物だけなのかという疑問から、主な食料の生産量と自給率変化のグラフを提示する。そして、他の食料も同じような状況であることを共有し、このままではいけないという思いを引き出すことで「食料を確保するためにどのような取組をしていけばよいのだろうか」という新たな目標を設定する。

5 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時4/6）

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p>① 回転寿司屋について調べよう</p> <p>水産物の自給率の資料などから約4割が輸入であることやその中でも回転寿司屋は約8割が輸入であることを捉える。そして、輸入品と国産の値段を比較することで、安いものを消費者に届けようとした結果であることを捉える。その後、回転寿司屋の店舗数やネタの種類などについて調べた後、回転寿司の昔と今の値段の比較から単元の目標を設定する。そして、目標に対して「輸入の燃料費や人件費が増えたからではないか」「より遠いところから輸入しているからではないか」などの予想について調べていくという、次時以降の大まかな見通しをもつ。</p>	<p>【認知段階】</p> <p>これまでに、学習を振り返る際に「納得ポイントを見付ける」という、「振り返る」方法を、手順を確かめながら一緒に振り返りを行い教示をした。加えて「立場を変えて考える」「友達の考えをきいて考える」など納得ポイントの具体例を共有している。また、次の学習に生かせるという、その方法を使うよさを共有している。</p>
二	<p>② 回転寿司屋の輸送の燃料費や人件費はどう変わってきたのだろう</p> <p>燃料費や人件費の変化のグラフから燃料費や人件費が高くなっていることを捉え、値段の高騰に燃料費や人件費が関係していることを捉える。そして、回転寿司の魚はどこから輸入されているのかという疑問をもつ。</p>	<p>【想起段階】</p> <p>振り返り場面において「振り返りでは、何を見付けていたかな」と問いかけ、「振り返る」方法を想起できるようにする。</p>
二	<p>③ 回転寿司屋のネタは遠いところからきているのだろうか</p> <p>回転寿司屋のHPに記載されているネタの原産国を調べる活動を通して、どこからどんなネタが輸入されているのかを知る。そして、日本から遠い国から輸入していることが値段の高騰に関係していることを捉える。さらに、2010年頃と現在の食材の原産国を比較できる資料を読み取り、昔は日本に近いタイや韓国などの国から輸入できていたことを捉え、なぜ今はできなくなっているのかという疑問をもつ。</p>	<p>方法が使えていない子供には、これまでの振り返り方を一緒に見返したり、掲示物や方法を使っている友達に注目を促したりすることで、方法を想起できるようにする。また、方法の手順やよさを示した掲示物を用意することで、方法の想起ができるようにする。</p>
三	<p>④ 今はなぜ近くの国から水産物を輸入することができなくなってきたのだろう</p> <p>既習である世界の水産物消費量のグラフや寿司を楽しんでいる外国人の写真などの資料を関連付けたり、アジアの国の給料の変化を示す地図と関係づけ考えたりすることで、日本が買い負けしていることに気付く。そして、水産物確保メーターを基に、輸入に頼った現状への危機感を抱く。</p>	
三	<p>⑤ 食料を確保するためにどのような取組をしているのだろう</p> <p>これは水産物だけの問題かという疑問から、新たな目標を設定する。食料確保のための取組を調べ、地産地消の取組や規格外品の活用など国内消費向上や食品ロスへの取組を調べ、食料確保の取組について捉える。</p>	<p>納得ポイントを見付けるために</p> <p>①黒板に書かれていることや友達の発言などをもとに、自分がなぜ答えを見付けられたのかを考える。 <small>社会科のことも見るといいね。</small></p> <p>②振り返りシートに、自分が答えを見付けられた理由に○をする。 <small>次の学習でも使えるね！</small></p>
三	<p>⑥ これからも食料を確保していくためにどうすればよいのだろう</p> <p>既習を基に、これからの日本の食料確保に対して、生産者や消費者の立場から「生産者がより高品質な食料や付加価値をつけた食料を生産しブランド化して売る」や「消費者は少し高くても国産のものを買う」などの自分なりの考えをもち、家の人に伝える。</p>	<p>さらに納得ポイントをはっきりさせるために</p> <p>③納得ポイントをインタビューし合う。(よりくわしく聞く！) 「○○さんの納得ポイントは何か？」 「～さんの発言を聞いたことと立場を広げて考えたことだよ。」 「立場を広げたのは社会科のどの何番のこと？」 「外国の人の立場で考えたから③番だよ。(一緒に考えてもいいね)」「くわしく分かったよ。ありがとう！」 <small>自分の考えがよ！はっきりするね！</small></p> <p>【方法に関する掲示物】</p>

6 本時の学習

目 標	世界の水産物消費量のグラフや海外の人が寿司を食べている写真、アジアの国の給料の変化などの資料を関係づけながら話し合うことを通して、近くから水産物を輸入できなくなった理由を捉えることができる。
--------	---

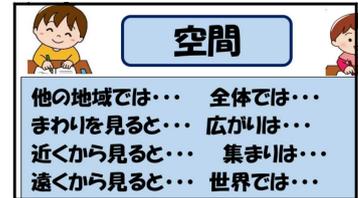
学習活動と手立て		主な子供の意識	
見 通 し	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。	<p>前の時間は、回転寿司屋のネタはどこからきているのか詳しく調べたよ。</p> <p>最後に昔は近くから輸入できていたのに今はできなくなったのを知ったね。</p> <p>昔はできてたのになぜ今はできなくなったのか知りたいな。</p> <p>今はなぜ近くの国から水産物を輸入することができなくなってきたのだろう</p> <p>空間を広げて世界の水産物の消費量から考えられそうだ。</p> <p>立場を広げて、外国の人の寿司を食べる写真から考えられそうだ。</p>	
行 動	2 学習課題に対する予想を考え、話し合う。 (1)・個人 ・自由交流 (2) 全体交流	<p>理由は、世界の水産物の消費量から世界の人が水産物を食べるようになったからだよ。</p> <p>私も似ていて、外国の人が魚を食べている写真から考えて、外国が水産物を輸入し始めたからだと思う。</p> <p>そうだね。それに、それを買うだけのお金ももつようになったと思う。</p> <p>なるほど。それに、水産業で学んだように、日本の周りの海は魚を捕り過ぎて、魚が捕れなくなっているのもありそうだね。</p> <p>せりでしたように日本が海外ほどお金を払えなくなっていると思うよ。</p> <p>生産量の減少と外国の人が食べるようになったこととお金をもち始め輸入するようになったことで、日本が輸入できなくなっているということだね。</p> <p>どちらも納得だけど、本当に周りの国の水産物輸入量は増えているの。</p>	
行 動	3 中国とタイの水産物の輸入量のグラフで予想したことを検証する。	<p>中国の水産物輸入量はだんだんと増えてきているね。</p> <p>タイの水産物輸入量も同じように増えているよ。</p> <p>やっぱり、日本の周りの国が水産物を輸入し始めて、日本が輸入できなくなってきたらだね。</p> <p>輸入したくてもできない、このような状態を買い負けというんだね。</p>	
振 り 返 り	4 本時の学習を振り返る。	<p>まとめると、生産量の減少と買い負けをしているからだね。これで単元の目標は解決できたね。</p> <p>水産物確保メーターにまとめると、このまま輸入に頼ったままでは水産物の確保は難しそうだね。このままではいけないね。</p> <p>今日の勉強での、納得ポイントを見付けよう。</p> <p>△△さんの世界の人が魚を食べるようになったという意見だよ。立場を変えたからよく分かったよ</p> <p>なるほど。立場を変えたと言うけれど、社会科のこつで言うところの立場なの。</p> <p>③の外国の人の立場だよ。□□さんの納得ポイントは何？</p> <p>私は空間を広げて世界全体で考えたことだよ。</p>	

評 価	世界の水産物消費量のグラフや海外の人が寿司を食べている写真、アジアの国の給料の変化の資料を関係づけながら話し合うことを通して、近くから水産物を輸入できなくなった理由を考え、表現している。また、納得ポイントを見付け、課題解決できた学び方を自己評価している。 【方法：発言、様相、表現物】
--------	---

7 本時の詳細

～見通し～ 学習活動 1

前時までに、回転寿司のネタはマルタやチリなど日本から遠い国から輸入し、日本からの距離が遠くなっている分、輸送費も高くなっていることを捉えている。また、昔は近くから水産物を輸入できていてコストも少なかったのに、今はなぜ近くの国から水産物を輸入することができなくなってきたのかという問題を発見している。その意識から、「今はなぜ近くの水産物を輸入できなくなってきたのだろう」のような本時の課題を設定するだろう。そして、予想をできそうか問い、できない様子ならば、外国の人の立場になって考えることなどの社会科のこつをどれが使えるか確認し、解決方法の見通しをもてるようにする。また、困った時や、よりよい考えをつくりたい時には友達と関わるとよかったことを確認することで、他者と共に課題解決することを意識できるようにする。



【社会科のこつの一部】

～行 動～ 学習活動 2・3

活動2では、これまでの学習の経緯から、社会科のこつを基に、既習である水産物の生産量のグラフや海外での魚ブームの写真などを基にしながら個人の考えをもつ。考えをもちやすいように、既習事項は補助黒板に掲示し、いつでも近くに行き見たり、友達と資料の確認をしたりしてもよいことを共通理解しておく。加えて、予めコの字型に机を寄せてグループの形をとり、視線を合いやすくすることで、困ったときやよりよい考えをつくりたい時に友達を見たり、友達に聞いたりしやすくする。友達と関わりたいが難しそうな子供に対しては、教師が間に入り、友達との交流を促す。交流中には、社会科のこつを使っている子供や友達と関わっている子供を価値付けることで、周りの子供たちも意識できるようにする。

活動3では、活動2で水産物の生産量減少と他の国が輸入するようになり日本が買えなくなってきたことが原因だろうと話合いが収束してきた段階で、日本の周りの国の例として中国とタイの水産物輸入量の変化のグラフを掲示することで、中国とタイの水産物輸入量を読み取り、外国の魚ブームと近くの国がそれを買うだけの経済力が上がることで日本が輸入できていた水産物を外国が輸入し、日本が輸入できなくなったことを確かめる。

～振り返り～ 学習活動 4

予想を検証した後、本時の学習をまとめていく。その後、水産物を確保できている状態を100%とし、その内訳を示すとともに、勉強して水産物確保に対して感じた自分たちの思いを書き加えてきた水産物確保メーターに今日感じたことを付け足していく。その際、プラスの思いを赤、マイナスの思いを青色で色分けする。本時の学びにより増えた青色の思いを水産物確保メーターに書き加えたり、このまままだどうなるかを問うたりすることで、現状のままでは水産物を確保し続けていくのは厳しいかもしれないと危機感をもてるようにし、次時へ問題意識をつないでいく。

本時分かったことをまとめた後、「振り返りでは、何を見付けていたかな」と問い、納得ポイントを見付けることで学び方を振り返られるようにする。実際に振り返る際には、社会科のこつと友達との関わり方を観点とした振り返りシートを使って振り返ることで、自分の学び方を自覚できるようにする。その後、納得ポイントをペアとインタビューする際に、一番の納得ポイントを交流することで、本時の学び方を明確に認知できるようにする。最後に、数名の子供に発表を促し、「今日見付けた納得ポイントは、次の学習に生かせそうだね」や「△△さんの発表が〇〇さんの学びに貢献できたみたいだね。△△さんどう思った」などと学級全体で共有し、方法のよさや協働のよさ、自分が友達の学びに貢献できたことを感じやすくする。

まとめ	㊦生産量の減少と買い負けが原因で輸入できなくなっている。	
	㊧輸送費のコスト増や生産量減少、買い負けが原因で値段が上がっている。	
今日の納得ポイント!	友達との関わり	友達の考えを見た () 困った時に友達に聞いた () 友達と話した ()
	社会科のこつ	広げて考えた 時間 ()・ 空間 ()・ 立場 (㊦) 資料を読み取る () 自分とつなぐ () 比べる () 資料とつなぐ ()

【振り返りシート】

